

令和 6 年 5 月 4 日現在

機関番号：34441

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2023

課題番号：20K23243

研究課題名（和文）ダブルケアを行う介護者の介護負担軽減につながるストレスコーピングに関する研究

研究課題名（英文）Research on stress coping that reduces the burden of caregiving on caregivers who provide double care

研究代表者

堀川 尚子（Horikawa, Naoko）

藍野大学・医療保健学部・講師

研究者番号：20880602

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：居宅介護支援事業所を利用する高齢者の主介護者であるダブルケア実施者に行ったインタビューデータよりダブルケアを行う介護者のストレスの実態を明らかにした。そして、ストレスコーピングとの関連について質問紙調査を行った。結果、自分自身の時間の確保と、家族や周りの人に協力とストレスコーピングとの関連が見いだされた。今後、更なる成果を発表する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ダブルケア実施者のストレスコーピングには、個人がダブルケアに向き合い継続したケアを可能にするための必要性が見いだされた。今後増加するとされているダブルケアに対して、社会全体で支援していくための一助になることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：We clarified the actual state of stress among caregivers who provide double care based on interview data with double care providers who are the main caregivers of elderly people who use home care support offices. Afterwards, We then conducted a questionnaire survey regarding the relationship with stress coping. As a result, a relationship was found between securing time for oneself, cooperating with family and other people, and stress coping. We plan to announce further results in the future.

研究分野：老年看護

キーワード：ダブルケア 介護と子育て 介護者 介護負担

1. 研究開始当初の背景

2025年には75歳以上の高齢者人口が3677万と予測され(内閣府, 2019)、地域包括ケアシステムによる病院から在宅への移行が進められている。しかし、介護を担う家族には、介護を必要とする親と子育てというダブルケア(以下、「ダブルケア」とする)に直面し、1990年ごろより社会問題化されている。ダブルケアによる負担は、介護者の心身の健康に深刻な影響を与えるとされており(Elizabeth, 2014)、介護者のバーンアウトに繋がる。しかし、ダブルケアを行う介護者のストレスコーピングに対する支援の研究は少ないため、介護支援専門員や看護師等による支援が十分とは言えない。そこで、ダブルケアを行う介護者のストレスの実態を把握し、介護者がストレスに対してどのようなストレスコーピングを行っており、また、ストレスが介護負担感に影響するのかを明らかにすることは、介護負担感の軽減の手掛かりになると考える。

2. 研究の目的

本研究は、ダブルケアを行う介護者のストレスの実態を明らかにする。ダブルケアを行う介護者のストレスとストレスコーピング及び介護負担感の関連を明らかにする。

3. 研究の方法

1) インタビューガイドによる半構成的面接(研究①)

ダブルケアを行うことによって発生するストレスとストレスコーピングの実態について明らかにすることを目的に、要介護認定を受け介護保険サービスを使用している高齢者の主介護者で、学童期までの子どもを持つ母親6名に対して、インタビューによる半構成面接を行った。

2) 自記式質問紙による横断的研究(研究②)

半構成的面接で抽出したダブルケアを行う介護者のストレスとストレスコーピング及び介護負担感の関連を明らかにすることを目的に、厚生省の介護事業所・生活関連情報検索システムより848箇所の居宅介護支援事業所に対して調査協力の依頼を行った。しかし、ダブルケアを行う介護者の支援に関わり、調査協力の同意が得られた事業所は、16事業所しか回答が得られなかった。そのため、調査依頼する地域を拡大し、462カ所の居宅介護支援事業所に調査の協力を依頼したが、協力の同意を得られたのは3事業所であった。協力の同意を得た事業所に、ダブルケアを行う介護者に対して、自記式質問紙調査を行った。

調査票は基本属性および子育てと介護の状況、研究①で明らかとなったダブルケアを行う介護者のストレス項目、ストレス量を測定する尺度としてVAS、ストレス対処の測定にストレスコーピング尺度(岡林, 1999)、介護負担感の測定には荒井らが作成したZarit介護負担尺度日本語版の短縮版(J-ZBI_8)(以下、J-ZBI_8とする)(荒井, 2003)を使用許諾後に使用した。そして、各パラメータの関連には、IBM SPSS Statistics Vo.27.0を用い、優位水準を0.05として分析を行った。

3) 倫理的配慮

研究者は、研究参加者及び研究協力者に対して研究の趣旨及び目的を説明し、研究参加は自由意志であり、参加に同意した場合での途中での撤回の権利があり中断する場合であっても不利益は受けないこと、得られた個人データの取り扱い厳重に管理し個人の匿名性を遵守することを説明した。また、本研究は、所属する大学の倫理審査委員会で承認を得て実施した。

4. 研究成果

研究

居宅介護支援事業所より居宅介護支援を受けている親・義親の介護を行い、研究協力の同意が得られた子育て中の 6 名よりインタビューを行った。研究参加者の年齢は 30～40 歳代で、平均介護期間は 52.2 カ月(4 年 6 カ月)であった。平均面接時間は約 58 分(50 分～69 分)であった。6 名のインタビューデータより、ダブルケアを行う女性が感じるストレスを感じる内容を抽出し、文脈に沿って意味が損なわれないように留意してコード化した 125 のコードから、20 のサブカテゴリーが見いだされ、【直接的な介助だけではない関わり】【自身の心身のコントロールの不調】【余裕のある時間の不足】【介護の役割に対する自尊心の低下】【対処するための知識の不足】【将来の両立への不安】【介護への信念と現実との相違】【子どもへの申し訳なさ】【望む理解と支援が受けられない環境】【介護に対する親族間との意見の調整】【ダブルケアへの責任感からの重圧】の 11 のカテゴリーに集約され、ダブルケアを行う介護者のストレスの実態を明らかにした。

研究

研究 で明らかとなったダブルケアを行う介護者のストレスに対して質問票を作成した。そして、848 ヲ所の居宅介護支援事業所に対して調査協力を書面で依頼したが、新型コロナウイルス感染拡大により調査協力を得ることが難しく、さらに 462 ヲ所の居宅介護支援事業所にも調査協力を依頼し協力を得た 18 ヲ所の居宅介護支援事業所から紹介を受けた 26 名のダブルケアを行う介護者に対してアンケート調査を実施した結果、回答のあった 17 名を分析対象とした。

明らかになったダブルケアを行う介護者のストレスと、ストレスコーピング及び介護負担感との関連を明らかにすることを目的に、厚生省の介護事業所・生活関連情報検索システムより検索した 848 箇所の居宅介護支援事業所に対して調査協力の依頼を行った。しかし、ダブルケアを行う介護者の支援に関わり、調査協力の同意が得られた事業所は、16 事業所しか回答が得られなかった。そのため、調査依頼する地域を拡大し、462 ヲ所の居宅介護支援事業所にも調査の協力を依頼したが、協力の同意を得られたのは 3 事業所であった。ダブルケアを行う介護者の支援に関わり、調査協力の同意が得られた事業所は、計画より少ない回答数となった。

2022 年 6～10 月に 1310 ヲ所の居宅介護事業所に研究協力の依頼を文書で行い、協力を得た 22 施設の介護支援専門員より利用者の主介護を担うダブルケア実施者の紹介を受け、研究協力の同意を得たダブルケアを行う介護者に自記式無記名質問紙調査を依頼し郵送での回答を得た。調査書には基本属性、ダブルケアのケア項目、介護負担感は荒井 J-ZBI_8、ストレス対処は岡林のストレス対処尺度を用い、作成者に使用許諾を得た。

結果、調査の回答および同意を得たダブルケアを行う 17 名を調査対象とした。対象者の平均年齢は 45.6 歳、子育ての対象となる子どもの人数は平均 1.3 人で、平均年齢は 11.4 歳であった。また、介護を受ける人の平均年齢は 78.6 歳であった。そして、自身がケアを采配し、代理で契約や金銭の管理を行い、子どもに我慢をさせていることに「あてはまる」と回答した人は、ZBI_8 が有意に高かった。また、ストレス対処について、自分自身の時間の確保が取れていないと回答した人は ZBI_8 が有意に高く ($p<0.05$)、家族や周りの人に協力を頼む人は ZBI_8 が有意に低かった ($p<0.01$)。この結果より、自身の時間の確保と周囲に協力を得るストレス対処は、介護負担感に影響することが明らかとなった。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、研究協力が得られない状況が続き、研究計画が大幅に遅れ、研究の妥当性と確証性を十分に担保することが困難となったことは本研究における限界である。

ダブルケア実施者のストレスコーピングには、個人がダブルケアに向き合い継続したケアを可能にするための必要性が見いだされた。今後増加するとされているダブルケアに対して、社会全体で支援していくための一助になることが示唆された。今後、更なる成果を発表する予定である。

参考文献

荒井由美子, 田宮菜奈子, 矢野英二. (2003). Zarit 介護負担尺度日本語版の短縮版 (J-ZBI_8) の作成: その信頼性と妥当性に関する検討, 日本老年医学会雑誌, 40(5), 497-503 頁.

- 安藤誠, 柴貴崇, 上出直人, 柴田博.(2009).地域在住要介護認定者の主介護者におけるストレスコーピングの特徴. 応用老年学, 3(1), 36-44 .
- 船渡弘子, 山口桂子.(2021) . 育児中の母親が親介護を担うダブルケア体験のプロセス. 家族看護学研究, 26(2), 89-104 .
- 内閣府.(2016) : ダブルケアの実態に関する調査報告書 . https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/wcare_research.html.
- 岡林秀樹, 杉澤秀博, 高梨薫, 中谷陽明, 柴田博.(1999).在宅障害高齢者の主介護者における対処方略の構造と燃え尽きへの効果. 心理学研究, 69(6), 486-493.
- 相馬直子, 山下順子.(2017) . ダブルケア (ケアの複合化) . 医療と社会, 127(1), 63-75 . doi : <https://doi.org/10.4091/iken.27.63>
- 谷口弘一, 福岡欣治 (編著) . (2019) . 対人関係と適応の心理学 - ストレス対処の理論と実践 - , 初版 . 京都府 : 北王路書房 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 堀川尚子、赤井由紀子	4. 巻 第8巻2号
2. 論文標題 ダブルケアを行う女性が感じるストレスの特徴	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本ヒューマンヘルスケア学会誌	6. 最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 堀川尚子、赤井由紀子
2. 発表標題 ダブルケア実施者が感じるストレスの実態
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Naoko Horikawa, Yukiko Akai
2. 発表標題 Stress Coping Affecting the Burden Perceived by Double Caregivers.
3. 学会等名 27th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2024) (The University of Hong Kong, Hong Kong) (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------